

令和4年9月～令和5年8月

桜馬場中 学力向上プラン

【令和4年度 研究テーマ】

1人1人の力を高め、ともによりよく生きようとする生徒の育成
～ Chromebookの利活用に夢をのせて ～

長崎市立桜馬場中学校 学校教育目標

「国際社会に生きるよき日本人」

㊦ 学力向上計画（令和4年8月）

◇学力向上に向けた課題の設定

読解力育成の計画

- 6つの問題分野（「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」「推論」「イメージ同定」「具体例同定」）を日頃の授業づくりの視点に加える。
- 授業では教師の発する言葉や提示した文章が、教師の意図どおり子供たちに伝わるように工夫する。

㊩ 学力向上への実践（令和4年9月～）

◇学力向上に向けた具体的な取組

読解力育成に向けた実践

- 根拠を示して（教科書から抜き出して）、集団や相手に向けて発表する活動の実施。
- 反復練習で知識・技能を高める。
※各教科の具体的な取組は裏面参照（昨年度の反省と今年度の取組）

㊦ 学力向上への新たな課題発見（令和4年8月）

◇学力向上に向けた新たな課題の明確化

＜国語＞

▲「書くこと」「根拠を明確にして説明することが苦手

＜数学＞

▲必要な情報を正確に読み解く力と根拠を示して説明する力の育成

＜英語＞

▲語彙力と文法の力が不足しており、代位に沿って自分の考えを表現する力の育成

読解力に課題

○『資質・能力』を育てるための手立て
他者と対話し、仲間と『協働』する
言動に責任を持ち、社会に『貢献』する
長崎のよさを知り、自ら『発信』する

学校評価を数値目標とする
～『確かな学力』～

○自分に必要な学習を自覚し、粘り強く、意欲的に取り組んでいる

	生徒	教職員
現状	80%	82%
	↓	↓
目標	85%	85%

○クロームブックを活用して学習に取り組む意欲・態度が高まった

	生徒	教職員
現状	86%	67%
	↓	↓
目標	93%	73%

㊦ 学力テスト・学力調査による分析

◇定期テスト・学力調査による取組結果の分析

＜国語＞

- 人物の心情や筆者の主張を読み取る問題をテストに出題し、評価する。
- 全体の要旨をまとめる問題を出題し、内容を評価する。

＜数学＞

- 読解力を身に付けることのできる課題を設定し、評価する。
- 根拠をもとに説明する力の育成と評価をする。

＜英語＞

- 身に付けた語彙力を活用し、テーマに沿って自分の考えを書く時間を設けて、書く力(基礎)を身に付けさせる。
- まとまりのある英文を書く問題を出題し、根拠を示して考えや理由を表現できるか確認する。

令和4年度 生徒の実態

（全国学力学習状況調査・県学力調査・市学力調査 結果より）

1年生 市平均との比較

国語（++） 数学（++）

2年生 県平均との比較

国語（++） 数学（ ）

3年生 全国平均との比較

国語（+） 数学（++） 理科（-）

県平均との比較

英語（++）

- 基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いている。
- 「書くこと」「根拠を示して説明すること」などが苦手。
- 無答率は低く、解答しようとする意志・意欲が見られる。
- 計画的に家庭学習に取り組むことや家庭学習時間は課題である。

＜平均との比較＞
高い（++） やや高い（+）
同等（ ）
やや低い（-） 低い（--）

学力向上への具体的な取組 ＜教科に関すること＞

- 「さくらの学び」でテスト計画・努力の軌跡・学習方法の一元化
- 1人1台端末を活用した探究的な学習（調べ学習）の実施
- 1人1台端末を活用した協働的な学習（グループ学習）の実施
- 1人1台端末を活用したプレゼンテーション能力の育成
- A Iドリルの活用による個別最適化
- 「聞く・話す」「読む・書く」活動の充実
- すべての教科でわかりやすい授業の実践
 - ・「めあて」「まとめ」を意識した授業（プレートの活用）
 - ・「明確な根拠を示し、考えを表現する（書く・話す）練習」
- T T授業による個別対応の充実
- 通常学級と特別支援学級・通級指導教室の連携による生徒や保護者のニーズに応じた教育

学力向上への具体的な取組 ＜教科外に関すること＞

- 1人1台端末を活用した専門部活動・部活動の充実
- 小中連携により9年間を見通した学習規律の共通理解と実践
- 「話し合い活動」や「思考」の場面の設定
- 総合的な学習の時間における探究的な学習の実施
- 3・2・1運動(3分前入室・2分前着席・1分前黙想)による授業規律の徹底
- ユニバーサルデザインの視点による教室整備
- 学校行事等を通じた表現活動を通して「発信」する力の育成